Hyogo Prefecture

第３回現役世代のがん対策推進検討会

ひょうごの現役世代のがん対策の今後の方向性

～これまでの議論を踏まえた取組の整理～

保健医療部疾病対策課

現役世代のがん対策推進検討会の方向性

第1回

(1)現状の把握、課題の共有
- 兵庫県のがん対策の現状・課題について広く共有
- 国の動向や、有識者からの意見などを共有

(2)意見交換
- がん対策の取組みについて、現場目線での現状・課題の共有
- 各団体等への質疑など

第2回

課題対応策の検討
- 第1回検討会で出た現状課題を踏まえた対応策の協議
- 公民連携を含む新たな取組みの検討
- 意見交換

第3回

検討結果のとりまとめ
- **現状・課題のとりまとめ**
- **今後の施策展開**
- **今後の取組の方向性**

今後

報告書とりまとめ

第2回現役世代のがん対策推進検討会　主な発言内容（R8.7.27）

がん・がん検診の正しい知識の啓発

- がん検診やがんの基礎知識について県民の理解が十分でない。各がん種の検診内容や、症状がない段階で受診することの重要性を分かりやすく周知すべき
- 検診を実施する行政や企業等対して、科学的根拠に基づく適切な検診の実施が必要
- 若者向けの啓発や医療機関等と連携した啓発強化が必要
- 国立がん研究センターの「がん情報ギフト」の活用や、協定締結企業が実施するデジタル市民講座などの既存の啓発コンテンツの更なる活用が必要

就労や社会参画

- 健康経営の観点から、がんなどの病気になっても治療と仕事を両立できる職場環境を整備し、その取組を魅力として発信、アピールすることが重要
- 両立支援に関する好事例やノウハウの共有、企業向け相談窓口の設置、社会保険労務士の活用などにより、企業の理解促進・体制整備を図る必要
- 患者本人だけでなく、他の社員への理解促進が重要。また、家族やパートナーの負担軽減も必要ではないか

相談支援の強化

- 相談内容の多様化・複雑化に対応するため、AI活用や地域医療機関との連携などによる効率的な相談支援体制の構築が必要
- 企業担当者向け研修の実施、産業医等の既存資源を活用した企業での相談支援体制の整備が必要
- ピア・サポーターの偏在化や病院内・外での活動機会の拡大、活動しやすい体制整備に向けた検討が必要

アピアランスケア

- 所得制限や補助上限額の在り方について、利用者ニーズや財源確保の観点を踏まえながら検討する必要
- ウィッグ等の補助については、利用者の体質や症状など個々の事情に配慮した支援のあり方を考える必要
- アピアランスケアは金銭的な支援だけでなく、県民の理解促進につながる普及啓発を含めた総合的な施策として推進することが重要

第3回がん対策推進検討会での主な検討事項

これまでの現状・課題や施策の方向性の議論を踏まえ、今後の施策展開について検討

項　目	課　題	めざす姿（方向性）
❶ 相談支援	• がん相談支援センター等の認知度不足 • 相談内容の多様化、複雑化 • 相談員のマンパワー不足	• いつでも気軽にアクセス可能 • 相談員の負担軽減
❷ 普及啓発・検診受診促進	• 基礎知識が知られていない • 現役世代の受診率が低い • 企業の理解不足	• がんに関する社会的理解の醸成 • 検診受診率向上 • 従業員の健康維持
❸ 治療と社会参画の両立	• 企業側、社員の理解不足 • 企業内の相談体制が脆弱 • 離職や働き方の制約	• 就労や社会参画の促進 • 働きやすい職場づくり • 離職防止・人材流出防止
❹ アピアランスケア	• 現役世代に支援が行き届いていない • 多様なニーズへの対応 • 外形変化に対する社会の理解不足	• 就労や社会参画の促進 • アピアランスへの社会的理解の醸成